

## 小倉駅新幹線口コンベンション施設 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年7月23日(火) 10:00~11:30  
令和6年10月2日(水) 10:00~12:00
- 2 場 所 AIMビル4階MICE・エンターテインメント課内特別会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 南構成員、齊藤構成員、林構成員、  
藤井構成員  
(事務局) 都市ブランド創造局観光にぎわい部長、  
MICE・エンターテインメント課長、  
MICE推進係長、係員
- 4 会議内容  
第1回  
○当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明  
○検討会の位置づけ及び検討会の進め方等について、事務局より説明  
○構成員の互選により、座長を選出  
○条件付き公募方式採用の理由等について事務局より説明。質疑応答  
(構成員) 評価シートについて、総合評価の79点というのはどういった位置づけなのか。  
(事務局) 施設の設置目的に対する達成度や効率性、適正な管理運営に関する取組みをもとに点数を付けている。Bランクは合計得点が70点以上80点満の場合で「やや優れている」という評価にあたる。今回は79点ということで惜しくもAランクには届かなかったが、コロナ禍において低下した稼働率を令和4年、5年度で元の水準に戻していることを評価した。  
(構成員) 前回の評価はどうだったのか。  
(事務局) 前回は77点でBランクであった。  
(構成員) 部長からの挨拶の中で、コンサート誘致等を市が積極的に進めていくとの話があった。指定管理者には学会をはじめ、いろいろなイベントに対するアプローチのノウハウや、誘致し、コーディネートしていく役割が特に求められていくと思われる。コンベンション協会においてそのあたりの能力をどのように見ているか。  
(事務局) まず国際会議において、地元大学との連携が取れている団体であることから、大学の先生たちも安心して学会を依頼できるという強みがある。これはコンベンション協会が時間をかけて大学と付き合いしていく中で築かれた信頼関係の上に成り立っている。  
学会は1000名規模のものが主流になっているが、590席しかない国際会議場だけでなく、西日本総合展示場新館や北九州国際会議場の会議室等も一体的に活用することである程度の規模の国際会議が誘致可能となる。

昨年、福岡市のマリンメッセにて世界水泳が開催された間、マリンメッセで開催できなかった数多くの催事を誘致し、実現した。1万人規模のコンサート等を無事開催し、プロモーターの要請に応じることができたという実績がある。今後、プロモーターとの関係を構築するという面では未知数なところもあるが、受入体制については問題ないと期待している。

(構成員) 指定管理施設の料金収入の目標値について、コロナ禍で減少した収入が令和5年度で盛り返している。世界水泳の影響で催事が流れてきたという外部要因の他に何か要因はあるのか。

(事務局) アフターコロナにおいて社会情勢が変化する中、例えば学会についてはハイブリッド型会議のための新たな支援メニューを新設し、催事については主催者の細かなニーズに対応できるよう努めた。令和4年度及び令和5年度において利用料金収入が回復傾向にある背景にはコンベンション協会のそういった取組みの結果が反映されていると考えている。

(構成員) 条件付き公募の妥当性における理由の説明の中で、さまざまなノウハウが組織に蓄積されており、他の民間団体には難しいという話があった。ノウハウを蓄積したエキスパート集団ということを加味し、目標値の設定についても議論する余地はあるように思う。

(構成員) 利用料金は市が条例で定め、指定管理者がその設定の中で収益をあげているものと認識している。稼働率はともかく、収入については市が決めた土俵の中でやらざるを得ない部分もあり、また、利用料を減免する必要が生じるというケースもあり、利用料金の推移だけで指定管理者の力量を図るのは難しいのかもしれない。

(構成員) 評価シートの採点やコメントは誰がつけているのか。

(事務局) 所管課であるMICE・エンターテインメント課で評価をしている。

(構成員) では、(市職員以外の)一般の市民は評価に関わっていないのか。

(事務局) 指定管理施設については、市の市政変革推進室という部署が一律で管理をしている。

所管課で作成した評価シートを市政変革推進室に提出し、そこで第三者機関の目には通されているため、所管課以外の視点も示されている。

(構成員) 施設の老朽化が進んでおり、指定管理者側で自主的な安全点検、修繕、改修工事をしているという記載があるが、修繕にかかる費用について、簡単なものは指定管理者の方でやって、大規模な改修は市の方でやるということか。

(事務局) そのとおりである。具体的には、100万円以下の軽微なものは指定管理者がするというような仕組みになっており、軽微なものの件数は年々増えている。

(構成員) 老朽化した施設であることから、今後大規模な工事が必要になった際、一定期間催事が行えなくなることになる。

(事務局) 今後、大規模な工事を行う際には、事前に指定管理者と調整し、なるべく運営に支障をきたさないようにする予定である。

(構成員) アンケートの結果を見ると、かなりの高評価を得られているようだが、アンケートの回収率があまり高くないように思われる。

(事務局) アンケートの回収率の低さは以前から認識しており、回収率をあげるよう指導を続けている。その甲斐もあって、令和5年度は令和4年度比で35.5ポイント増と大幅に上昇している。ただし、依然として回収率が高いわけではないため、今後も回収率を高めるため指導を継続していく。

(構成員) コンベンション協会の事務局の人数は61名とあるが、定着率はどの程度か。長く勤務しているのか。

(事務局) 長く活動してきた方が多く、職員の高年齢化が進んでいる。

#### ○条件付き公募にすることの妥当性審査について

(構成員) 妥当性ありと判断。MICE誘致に係るノウハウを長きにわたって蓄積したこと、コロナ禍を除き概ね目標を達成してきたことが理由である。ただし、令和5年度においては福岡市で世界水泳が開催されたことによる外部要因が大きいといえるため、今後は、施設の強みや魅力を活かして利用件数を増やすような取組みを期待している。

(構成員) 妥当性ありと判断。これまでの施設運営における実績と評価が高いことと地域との関係性を構築していることが理由である。また、今後MICE誘致において都市間競争が激しくなる中、本館を含め、施設を一体的に運営できる団体は他にないように思われる。

(構成員) 妥当性ありと判断。過去の実績が高く、長年培ってきた経験が理由である。市民代表としての意見を述べさせていただくと、今後、市民の意見をより反映できるような施設になるように期待している。

(構成員) 妥当性ありと判断。施設については強みもある一方、老朽化が進んだり構造が分かりづらかったりと弱みもあるが、コンベンション協会が一番把握している。また、北九州地域内外との強固のネットワークがあり、施設活用のノウハウが豊富で、今後新たな展開も期待できる。

本検討会としては、全会一致で妥当性ありと判断し、第1回検討会を終了。

## 第2回

○指定管理者候補の選定基準、適否選択の注意事項について、事務局より説明

○申請団体より提案内容のプレゼンテーション

○質疑応答

(構成員) 提案書及びプレゼンテーションから、充実した主催事業、卓越したMICEの誘致活動に取り組んでいることがうかがえた。貸館事業も非常に重要な部分であり、難しい利用調整をこなせることが団体としての強みであると推測している。次期に向けて、貸館業務をどのように取り組んでいくか、あるいはこれまでどのように取り組んできたか教えていただきたい。

(申請団体) 利用調整において融通が利くところが団体としての貸館業務を行ううえでの強みである。貸館の正常なルールでは予約は1年前からしか取ることができないが、国際会議やコンサート等は1年以上前から日程が決まり、予約が必要なケースがある。市への経済波及効果が高いものが優先的に予約を取れるよう、誘致部やサービス課と情報共有を行い、調整している。

(構成員) 提案書10pの年度別の目標設定において、国際会議場の令和9年度の利用件数が、7年度、8年度の570件と比較し、半分の285件となっているのはなぜか。

(申請団体) 令和9年の10月から令和10年の3月までの半年間、会議場の大規模改修を行う可能性があり、貸館営業及び予約受付を中止している。そのため、単純計算ではあるが、令和7・8年度の半分の稼働ということで半分の利用件数を計上した。稼働率に関しては、その間(閉館時期を除いた期間)での稼働率であり、来場者数に関しては、平年と半分の稼働日数であるが、残り半分での貸館業務に努めるということで7・8年度と同様の6万人を計上している。

(構成員) 稼働可能な分母に対する稼働率を示すべきではないか。

(申請団体) 令和9年4月から9月までの半年間のみ稼働するため、10月からの半年間は分母から除いている。

(構成員) 提案書18pに新規営業案件の一覧が記載されているが、実際に営業を行う中で実際に施設の利用につながるケースは体感でどのくらいあるか。

(申請団体) 新型コロナウイルスの影響でなくなった催事はもちろんあるが、「逆コロナ」といってコロナ禍にできなかった反動で新しく実施される催事も多くある。業界全体が活性化されているという実感があり、問い合わせをいただいた案件については、体感として6割くらいが利用につながっている。

営業においては、新館のA区画だけで収まるような小さな案件よりも、A、B、C全体を使って、市外・県外から人を呼べるような、また、参加者が宿泊を伴うような催事を獲得できるよう尽力している。

- (構 成 員) 先ほど出た話だが、提案書 10p の利用計画において、大規模改修のため令和 9 年度の国際会議場の目標利用件数が半分になっていることは理解したが、来場者数は半分にせず令和 7・8 年度と同数というのは、各催事において倍の来場者を獲得しなければ実現しない数値であり、目標設定が厳しすぎるように思う。
- (申請団体) 大規模改修は予定であり、施行しない場合もある。改修が行われるかどうかは市の予算の兼ね合いで 1 年くらい前には判明するため、改修しないことが決まった場合は、予約受付を停止していた 10 月以降に催事を入れるように営業に努めるつもりである。また、改修する場合においても目標に向かって尽力するつもりではあるが、おっしゃるとおり、稼働日数は半分で来場者数 6 万人という目標設定は高すぎたようにも感じる。
- (構 成 員) 目標設定は、稼働日数に伴って来場者数も半分にするか、大規模改修が正式に決まっていなければ、利用件数を平年どおりの件数にしてもよかったのではないかと感じた。
- (構 成 員) 先ほどコロナ禍の反動で貸館事業が好調であるとの話が出たが、今後どこかで一種のバブル状態が終了する可能性もある。その際にどのように貸館営業に取り組むか想定はあるか。
- (申請団体) 令和 5 年度は過去最高の稼働率を達成したと話したが、ようやくコロナ禍前の令和元年度の実績を少し抜いたという状況であり、国際会議はまだ戻ってきていないと感じている。また、国がインバウンドを推進していることもあり、現状のバブルが収束するのではなく、今後も実績は伸びていくと目論んでいる。
- (構 成 員) 半導体等を全面に押し出した新たな主催事業についても提案があったが、半導体・エレクトロニクスはすでにエコテクノにおいて取り組んでいたという印象がある。つい先週、福岡市のマリンメッセにおいて、半導体に特化した産業展が開催されていたが、すさまじい参加者であった。今後、産業別展示会を行ううえで福岡市はかなり強力なライバルになることが想定される。貸館業務・主催事業を行っていく中で、どのように福岡市に対して優位に立つか考えはあるか。
- (申請団体) 主催事業については、たとえば北九州型の製造業をとりまく環境に注目したり、子育てだったり、分野は違うが様々な展示会のやり方があるように考えている。  
福岡市のコンベンションビューローとは連絡を取り合っており、競合するというよりも、たとえば展示会を両市で共同開催するなどの色々なやり方を模索していきたいと思っている。
- (構 成 員) 令和 9 年に国際会議場が大規模改修をする可能性があるという話が出たが、会議場が使えなくなった場合、国際会議を市内の文化施設やホ

テルで開催するための取組みはできるのか。

(申請団体) 国際会議や大会等を誘致するにあたり、会議場や展示場が埋まっている場合は、ホテルや市関連施設等に対して、会議等開催のため使用ができないか便宜を図るといった取組みは以前から行ってきた。我々の誘致に関するミッションは、会議場と展示場を埋めるだけでなく、「北九州市」に誘致することであり、令和 9 年度は M I C E 開催のための助成金を戦略的に活用し、会議場で賄えないものに対して強い意識をもって誘致に取り組んで参りたい。

(構 成 員) 提案書の 28p において、各種メディアを活用した情報発信の例が記載されているが、市民は SNS 等を通じて各種催事の情報を知るケースがあるように思うが、具体的に、広報分野においてはどのように取り組んでいるのか。また、SNS のフォロワー数も教えていただきたい。

(申請団体) 小倉駅等に設置されてあるビジョン・サイネージを活用した情報発信や、ポスターの掲示・チラシの配布による取組みを行っている。フォロワー数については、手元に情報がなく、確認が必要である。

(構 成 員) 令和 5 年度のトミカ博への来場者数が令和元年度に比べて減少しているのはなぜか。

(申請団体) トミカ博について、コロナ禍前は人数制限等を設けていなかったが、主催者の意向もあって、コロナ禍後は来場者一人ひとりの満足度を高めるため、時間指定をする等の工夫をしたこともあり、全体の来場者数は減少している。

また、これまで主催事業以外はプレスリリースをほとんど行ってこなかったが、今年度からは貸館での催事についても積極的に報道機関に情報発信を行い、メディアの露出によって来場者数が増えるよう取り組んでいる。

(構 成 員) 提案書の 37p で記載されている指定管理料が、令和 7・8・9 年度で全て同額の 250,851 千円なのはなぜか。また、指定管理料が上振れしたり下振れしたり調整がなされることはあるのか。

(申請団体) 上限額として提案をしているが、市の予算の関係で変動する可能性はある。(のちほど事務局から説明)

(構 成 員) 収益を伸ばす取組みを色々となされていると思うが、まだ伸びしろがあるように感じる。たとえば、展示会の出店者向けに名刺を刷るサービスや、大量のコピーを行うサービスを導入するといったものがあげられる。あとは食について、来場者の昼食需要に対して周辺には食事を取れる店が乏しいように思う。飲食店に場所貸しをして使用料収入を得る等、客のニーズを拾い上げることでまだまだ収益を増やす余地はあると考える。

(申請団体) キッチンカーを呼んだり弁当を手配したりすることはあるが、おっしゃるとおり、大量のランチ難民には対応できていない。飲食店への場

所貸しも含め、検討していきたい。

○意見交換の前に事務局から補足説明

(事務局) 令和9年度の国際会議場の大規模改修についてはあくまで予定であり今回の仕様書の中には含んでいないが、当該団体とは大規模改修の予定について事前に調整を行ってきたため、大規模改修を考慮した提案となっている。

また、指定管理料の変動について、提案が3年間同じ額であるのは、こちらが申請要綱に定めた上限額の値であり、上限額の範囲内で提案をしてきたかたちになる。実際の指定管理料については、実績等を踏まえ、今回決定した額を上限とし、その範囲内で毎年の予算協議の中で調整をすることとなる。

○構成員全員で意見交換

(構成員) 評価をするうえで安定的な人的基盤という項目があるが、人員配置計画表を見るに、高年齢化が著しく進んでいる。今回の指定管理期間は3年間であるため、指定管理期間中に大きな問題になるとは考えにくいですが、高年齢の人材が抜けた後にしっかりと補填ができるのかという点は気になった。

(事務局) 職員の高齢化については我々も課題と認識している。

(構成員) 書類上の数字等で少々疑義は生じたが、全体的に見て指定管理業務を担っていくうえで十分な能力を有していると判断した。今後も大いに期待できるのではないかと感じた。

(構成員) これまで培ってきた実績があり、多様な提案もしていたように思う。今後の主催事業への取組みについても色々とは打ってあるように感じたため、本団体に委託するという点で間違いないと思われる。

(構成員) 本団体に指定管理業務を任せると判断した。ただし主催事業をはじめ色々な催事を行ってきたにも関わらず、広報・PRが上手くできていないように感じる部分があり、フォロワー数を即答できない点は問題だと思われる。市民に対して自分たちの取組みを広く周知し、現況を把握していくことは今後の課題だと言える。

(構成員) 本団体に指定管理業務を委託することは妥当であると判断した。今後良い意味での民間色を出した方が伸びしろはあると感じた。多種多様な分野の人材が参画している団体であるため、民間的な視点に立って、より稼ぐ力を発揮してほしいと思う。そのための環境やポテンシャルは充分にあると思っている。そういった視点を持つ人材を新たに採用することで、より良い人員体制になると思っている。

○各構成員の意見を踏まえ最終的な判断

(構成員) 全項目で「適」と評価。全体的に充実した提案となっており、指定管理者として北九州市のにぎわいづくりに貢献し続けていくことが期待

できる。付帯意見は特になし。

(構 成 員) 全項目で「適」と評価。付帯意見は特になし。

(構 成 員) 全項目で「適」と評価。付帯意見は特になし。

(構 成 員) 全項目で「適」と評価。付帯意見は特になし。

本団体に指定管理者業務を委託することは、全会一致で「適切である」と判断し、第2回検討会を終了。